

人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。

JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA

—— 創立指揮者 渡邊暁雄 ——

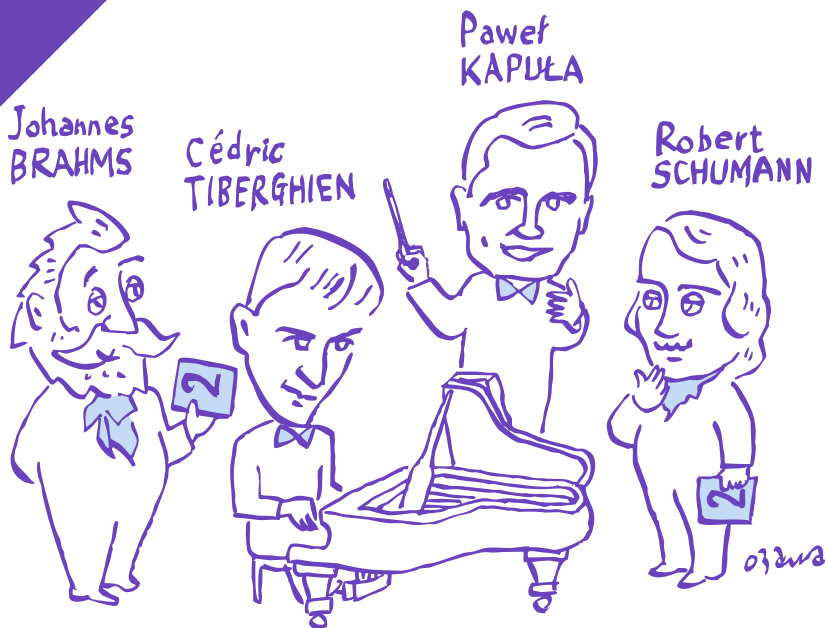
JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA
SUBSCRIPTION
CONCERTS

2024

12

DEC

第 766 回
東京定期演奏会



サントリーホール

2024年11月29日(金) 19:00 11月30日(土) 14:00

日本フィルハーモニー交響楽団

演奏中のマナーにご協力をお願いいたします。

電源 OFF	アラームOFF 電源OFF	演奏中は携帯電話や時計のアラームなどデジタル機器の電源はお切りください。
音にご注意を	ビニール袋	マジックテープやファスナーの音 靴にしまし、または下へ置くなど物音がたないようにご配慮ください。
	船の袋	鈴などアクセサリがついたストラップ 靴にしましなど鳴らないようにご配慮ください。
	補聴器の音	ハウリングをおこさないよう、しっかりと装着し、適切な音量に調整をお願いいたします。
声と拍手にご注意を	私語 せき	演奏中の私語はご遠慮ください。咳をする時はハンカチなどで口を覆って響かないようご配慮を。また、拍手やブラボーは指揮棒がおりてから最後の余韻までお楽しみください。
撮影禁止	録音禁止 録画禁止 写真撮影禁止	演奏中の録音・録画・写真撮影は、固くお断りしております。 ※演奏終了後に写真撮影可能な公演がございます。 詳細は公演時にご案内いたします。
周囲にご配慮を	身を乗り出さない つかの広い/高さのある帽子	席から身を乗り出したり、着用している帽子が後ろの席の視界を遮っていることもございます。周囲にご配慮を。



終演時のカーテンコールで写真撮影が可能です。
撮影はスマートフォン・携帯電話のみ、自席にご着席のまま行い、動画の撮影はご遠慮ください。

撮影に関しては以下のルールを守ってくださいますようお願い申し上げます

- ・アンコール演奏中の撮影はご遠慮ください
- ・スマートフォン、携帯電話以外のカメラでの撮影はご遠慮ください
- ・フラッシュの使用はお控えください
- ・動画の撮影はお控えください
- ・撮影の際、手を高く上げるなど周りのお客様のご迷惑になる行為にご注意ください
- ・自席にご着席のまま撮影をお願いいたします
- ・SNS等に掲載する際は、ほかのお客様のうつりこみにご注意ください
- ・自撮り棒などの使用はお控えください
- ・演奏中はスマートフォン、携帯電話の電源をお切りください(録音・録画は違法行為です)

SNSに投稿いただく際は、ハッシュタグ #日本フィル #japanphil をつけてください!

目次 CONTENTS



©Kamil Szkopik

■ プログラム	4
■ 出演者プロフィール	6
■ プログラム・ノート- 奥田 佳道 -	8
■ 写真プレイバック- 2024年9月~10月 -	11
■ 次回東京定期演奏会 指揮者にインタビュー 山田 和樹編	12
■ 今後の日本フィル出演公演	14
■ 広上淳一&日本フィル「オペラの旅」Vol.1《仮面舞踏会》記者懇談会レポート	16
■ 2025年春季セット券	20
■ あらゆる人々へ、あらゆる世代へ、あらゆる地域へ、世界へ	21
■ 感動の共有 ~ご支援のお願い~	29
■ 日本フィルハーモニー交響楽団 特別会員ご芳名	30
■ パトロネージュご芳名	34
■ Member's TVU CHANNEL 配信一覧	36
■ シーズン移行について	37
■ インフォメーション	38
■ 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団 名簿	39

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA 766th SUBSCRIPTION CONCERTS

日本フィルハーモニー交響楽団
第766回 東京定期演奏会



サントリーホール Suntory Hall

2024年11月29日(金)午後7時開演 / 30日(土)午後2時開演
7:00p.m., Friday, 29th & 2:00p.m., Saturday, 30th November, 2024

■ プレトーク「本日の聴きどころ」

東京定期演奏会では、毎回これから始まるコンサートの聴きどころや楽曲解説、アーティストの素顔等を紹介いたします。今月は奥田佳道さんです。

金曜日 / 18:30 ~
土曜日 / 13:20 ~

主催 / 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団
協賛 / 株式会社ウテナ 鹿島建設株式会社
三井不動産株式会社
ホッカンホールディングス株式会社
UBE株式会社

表紙イラスト / 小澤 一雄

後援: ポーランド広報文化センター
INSTYTUT POLSKI TOKIO

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会

文化庁
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan

ブラームス: ピアノ協奏曲第2番 変ロ長調 op.83

約47分

Johannes BRAHMS: Concerto for Piano and Orchestra No.2 in B-flat major, op.83

休憩(15分) Intermission

シューマン: 交響曲第2番 ハ長調 op.61

約42分

Robert SCHUMANN: Symphony No.2 in C-major, op.61

※当初発表の指揮者より変更になりました

指揮: パヴェウ・カプワ

Conductor: Paweł KAPUŁA

ピアノ: セドリック・ティベルギアン

Piano: Cédric TIBERGHIEIN

コンサートマスター: 木野 雅之 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: KINO Masayuki, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ: 門脇 大樹 [日本フィル・ソロ・チェロ]

Solo Violoncello: KADOWAKI Hiroki, JPO Solo Violoncello

ご自宅で
公演の感動を
何度でも

11月29日(金)公演は後半演奏曲 ライブ&アーカイブ配信あり!

販売期間: ~2025年5月28日

視聴期間: 購入から3か月

料 金: 1,000円

Member's TVU CHANNELにて配信
<https://members.tvuch.com>



現在配信中の公演及び配信予定はP36をご覧ください

*この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムを用意しております。ご要望の方は主催者までお申し出ください。



Conductor

指揮

パヴェウ・カプワ

Paweł KAPUŁA

©Kamil_Szkopik

ポーランド国営ラジオ局から「ポーランド指揮界の真の希望」と称賛されたパヴェウ・カプワは、若手世代の中でも最も華やかで、最も優れた指揮者の一人である。卓越した指揮テクニックに裏打ちされた、エキサイティングで新鮮、かつ非常に魅力的な解釈で高い評価を得ている。挑戦を恐れないカプワのプログラムと指揮スタイルは、高いレベルの繊細さと創造性を示しており、ヨーロッパをはじめとする世界中で存在感を増している。現在、ポーランドのポメラニアン・フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者を務める。

2024/25年シーズンには、ハンブルク交響楽団、デンマーク室内管弦楽団、ロベルト・シューマン・フィルハーモニー、日本フィルハーモニー交響楽団、西安交響楽団、貴陽交響楽団といった世界有数のオーケストラでデビューを果たす。また、アルスター管弦楽団、インゴルシュタット・ジョージア室内管弦楽団やロイトリンゲン・ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団 などとは定期的に共演を重ねている。

これまでに、オスロ・オペラ管弦楽団やオーフス交響楽団などにデビューを果たし、ヨーテボリ・オペラ管弦楽団、バーゼル交響楽団、南西ドイツ・フィルハーモニー管弦楽団（コンスタンツ）や、母国のポーランド国立放送交響楽団、ワルシャワ・フィルハーモニー管弦楽団などと共演している。

最新録音は、プラハのルドルフィナムで行われたプラハ・フィルハーモニー管弦楽団とのベートーヴェンのピアノ協奏曲集が国際的にリリースされたばかりである。また、ポーランドの無名作曲家の作品をポーランド放送のために数多く録音している。

7歳で初めてピアノのレッスンを受け、クラクフ音楽院でタデウシュ・ストウルガラとスタニスワフ・クラヴチンスキに指揮を師事。2013年にヴロツワフで開催された第1回アダム・コピチンスキ学生指揮者コンクールで最終選考に残り、優秀賞を受賞した。

<https://www.pawelkapula.com/>
Instagram@pawelkapula
X @pawelkapula



Piano

ピアノ

セドリック・ティベルギアン

Cédric TIBERGHIE

©Ben Ealovega

フランスのピアニスト、セドリック・ティベルギアンは、輝かしい国際的なキャリアを確立し、カーネギー・ホール、ケネディ・センター、アムステルダム・コンセルトヘボウ、クイーン・エリザベス・ホール、バービカン・センター、ザルツブルクのモーツァルテウム等、世界で最も名声の高いホールに登場している。

2022/23シーズンは、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団に再登場（メシアン：トゥーランガリラ交響曲）、またフランス国立管弦楽団、バーミンガム市交響楽団等で演奏。

2023/24シーズンは、アトランタ交響楽団にデビュー、またロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、サンフランシスコ交響楽団、リヨン国立管弦楽団に再登場する。また、ロンドンのウィグモア・ホールとのつながりは長く、今シーズンも続く「ベートーヴェン変奏曲」プロジェクトの第5弾で、他の作曲家の作品を並べ、このジャンルの進化を示している。この他にもベルリンのピエール・ブレーズ・ザール、マラー室内管のヒッツアッカー音楽祭にも出演する。

これまでロンドン交響楽団、ポストン交響楽団、クレーヴランド管弦楽団、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー交響楽団、パリ管弦楽団等と共演、またクリストフ・エッセンバッハ、イルジー・ビエロフラーヴェク、シモーネ・ヤング、フランシス＝グザヴィエ・ロト、ヤニック・ネゼ＝セガン、ステファン・ドヌーヴ等世界的指揮者と共演。

パリ国立高等音楽院で研鑽を積み、1992年わずか17歳でプルミエ・プリを受賞。1998年、ロン＝ティボー国際コンクールで優勝、合わせて聴衆賞とオーケストラ賞を含む5つの特別賞も受賞。これにより、彼の国際的なキャリアがスタート。60曲を超える協奏曲のレパートリーを持ち、世界の一流オーケストラと共演を重ねている。セドリック・ティベルギアンは室内楽にも熱心に取り組んでおり、特に、アリーナ・イブラギモヴァ（vn）、アントワン・タメスティ（va）とは定期的にパートナーを組んでいる。

揮ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団による《ザ・グレート》の歴史的蘇演(1839年3月21日)には立ち会えなかったが、その後聴く機会に恵まれ、美しい言葉も遺している。そして何と交響曲第2番の創作が始まるかという1845年12月にも、ドレスデンで《ザ・グレート》を耳にしているのだ。晴朗なハ長調で交響曲を書くことは、シューマンにとって芸術的な必然にしてひとつの帰結だった。

しかし、かねてから患っていた幻聴に悩まされ、完成までには思いのほか歳月を要する。後に改訂されたとはいえ、自身の「春」をも映し出す交響曲第1番変口長調(1841年3月31日にメンデルスゾーン指揮ゲヴァントハウス管弦楽団が初演)のように一気呵成に書くわけにはいかなかった。

スケッチは1845年12月下旬に書き終えたようだが、体調不良や芸術上の葛藤もあり、オーケストレーション(管弦楽化)は見送られる。交響曲第2番がいちおう完成したのは、それから10か月後の1846年10月で、同年11月5日にメンデルスゾーン指揮ゲヴァントハウス管弦楽団により初演される。出版に際し改訂も施された。

以上のような創作の経緯や楽想から、19世紀中葉以降のドイツ語圏では、ベートーヴェンの通称《運命》や「第9」との関連で語られることもあった。自身が置かれた過酷な状況(苦悩)を克服し、歓喜、勝利に至るベートーヴェン的な方法論で創られた交響曲と見なされたわけだが、ウィーン古典派の流儀を遵守しつつ魔境的な調べを紡いだシューマンは、そうした声を否定しなかったようである。

実際、鍵盤芸術から派生したかのよう

なアレグロ・ヴィヴァーチェの第2楽章に、ベートーヴェンからの好ましい影響が見て取れる。2つのトリオ(中間部)を挟んだ5部構成のスケルツォ。交響曲第4番、第6番《田園》、第7番から受け継いだ筆致だろう。ベートーヴェンのスケルツォは同じトリオを2回繰り返すスタイルとはいえ、関係性は明らかである。

内なる尽きせぬ音楽への想いがついに溢れ出たのがアダージョの第3楽章で、あの胸をうつ跳躍音型はバッハの《音楽の捧げもの》トリオ・ソナタ ハ短調から採られた。

巧緻を極めた第4楽章にも喝采を。終盤には、ベートーヴェンの連作歌曲集《はらかな恋人に》の終曲「(お別れに)この歌を聴いて、愛する君のために歌ったこの歌を」の主題が舞う。妻クララの想いだろうか。

偉大な先人の筆致や調べをさりげなく織り込みつつ、有機的な管弦楽法に自信を深めた交響曲作家シューマンがここにいる。逸品だ。

第1楽章: ソステヌート・アッサイ〜アレグロ・マ・ノン・トロツポ、ハ長調、序奏:4分の6拍子、主部:4分の3拍子

第2楽章: スケルツォ、アレグロ・ヴィヴァーチェ、ハ長調、4分の2拍子

第3楽章: アダージョ・エスプレッシヴォ、ハ短調、4分の2拍子

第4楽章: アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ、ハ長調、2分の2拍子

楽器編成:フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、ティンパニ、弦楽5部。

Playback

プレイバック

9月、10月の公演を
振り返ります



PHOTO 1 9月25日 にじくら第5回
完売御礼、満員のお客様をお迎えました!
モーツァルトのトルコ風で美しい音色を届けてくださった竹澤恭子さん、広上淳一マエストロ、高橋克典さん、コンマス扇谷と。
後半は大河ドラマ&映像作品セレクションをお楽しみいただきました。



PHOTO 2 9月28日 コバケン・ワールドin KYOTO Vol.4
29日 コバケン・ワールドVol.37
毎回完売する大人気のコバケン・ワールド。今回はソリストに高木凛々子さんをお迎えしてルームシアター京都と昭和女子大学人見記念講堂で開催しました。次回Vol.38は2025年1月!



PHOTO 3 10月5日 横浜定期演奏会
久々の「輝け!アジアの星☆」フレッシュながら充実の音色を届けた出口大地マエストロとチェロの鳥羽咲音さん。コンマス扇谷と記念撮影!



PHOTO 4 10/13 UBEクラシックコンサート
17回目となった宇部公演。今年は大井剛史さんと高木綾子さん(フルート)と共に、モーツァルトのフルート協奏曲第2番やオーケストラの小品をお届けいたしました。

PHOTO 5 10月13日~14日
那須塩原市中学校吹奏楽フェスティバル
木管五重奏でゲスト出演。中学生の皆さんの熱演に交じり、単独演奏と合同演奏を行いました。質問コーナーでは演奏技法から緊張しない方法までたくさん熱心な質問が。身近に聴くプロの音色に聴き入る生徒の皆さんと心を通わせました。

PHOTO 6 10月18日、19日 東京定期演奏会*
小林研一郎マエストロの指揮で、ピアノに高木竜馬さんを迎えたこの公演は両日も完売!満員のお客様にラフマニノフのピアノ協奏曲第2番とブラームスの交響曲第1番をお届けいたしました。

*日本フィルのライブ・アーカイブ配信はMember's TVU CHANNELで。
<https://members.tvuch.com>



NEXT CONCERTS
》》 次回東京定期演奏会

第 **767** 回

サントリーホール

プレートーク 山田 和樹氏

2025年1月17日(金)19:00開演 18:30~

18日(土)14:00開演 13:20~ 熟練者少

まさに「威風堂々」!たる
イギリス音楽プログラム

指揮: **山田 和樹**

ヴァイオリン: **周防 亮介***

エルガー: 行進曲《威風堂々》第1番

ヴォーン=ウィリアムズ: 揚げひばり*

エルガー: 交響曲第2番



1回券料金 S ¥8,500 A ¥7,000 B ¥6,000 C 完売 P ¥4,500 Ys (25歳以下) ¥2,000

※障害者手帳をお持ちの方は割引がございますので、サービスセンターにお問い合わせください。

次回東京定期演奏会指揮者にインタビュー!

山田 和樹 編

きき手 山崎 浩太郎

今年のシカゴ交響楽団とニューヨーク・フィルへのデビューに続き、2025年6月にはベルリン・フィルへのデビューが予定され、活躍の場をますます広げている山田和樹さん。「自分がいちばん最初にファンになったオーケストラ」という日本フィルとのつながりを大切にされ、「これからも年に最低1回は出ます」。

今回は、バーミンガム市交響楽団の音楽監督として英国愛を強めるマエストロによる、イギリス・プログラムです。

一まず、エルガーの行進曲《威風堂々》第1番ですね。

山田「思い出の曲なんです。自分が入った高校の吹奏楽部は、生徒が指揮をするんです。1年生から全員で指揮をしてみても選ばれる。最後まで残ると自分の好きな曲をやれるんですが、そのとき選んだのがこの曲なんです。

バーミンガム市交響楽団と演奏したとき、何百回も演奏した曲だろうけど、僕にとって

は特別な曲なんだよと、この話をしたんです。すると、とても感動的に演奏してくれた。よかつたなと思っていたら、エキストラの奏者が寄ってきて、その吹奏楽版の編曲者の名前を覚えているかと聞いてきた。もちろん覚えていない(笑)。でも外国人だったと思う、と答えたら、きっとそれはこのオーケストラに以前いたヴァイオリン奏者の旦那さんだ、と言うんです。世界は狭いなと、縁を感じましたね」

一たしかに不思議な縁ですね。お好きになったきっかけは?

山田「中学生ぐらいのとき、まずピアノ譜で知りました。何かのピアノ曲集にアレンジされて入っていたんです。弾いてみていい曲だなと思って、それで高校ではこの曲を選びました。

そのあと、イギリスにはプロムスという夏の音楽祭があって、最後の日には、この曲をお客さんがみんなて歌い、風船を飛ばしたりするなかで演奏すると知り、いつかそこへ行きたいと思うようになりました。

そのころは、バーミンガムという名門オーケストラで《威風堂々》を指揮する日が来るなんて、夢にも思っていなかった。僕の音楽人生の、象徴的な曲なんです」

一その曲を、あらためて日本で演奏するわけですね。

山田「そうです。ただ、日本フィルもさんざん演奏してきた曲だけに、どうリフレッシュするか。その点に気をつけてやってみます」

一続いて、ヴォーン=ウィリアムズの「揚げひばり」。

山田「僕はいままでヴォーン=ウィリアムズの作品をあまり指揮してなくて、この曲も初めてなんですが、大切なのはイマジネーションだと思います。イギリスのどの作曲家にも共通して感じるの、イギリスの自然と結びついていることです。かれらが暮らした場所に行くと、その風景と音楽に強い結びつきを感じます。キリスト教より前の、ケルト系のブリトン人が暮らしていた時代からの、土着の神様と自然が結びついていて、音楽もそこにつながっている。バーミンガムに来てから、そう感じるようになりましたね。」

一ヴァイオリン独奏は周防亮介さんですね。

山田「この曲には周防さんがいいなと、ピンときたんです。歌心、歌いまわしが素晴らしいし、他の誰とも似ていない、独自の感性を持っている方ですから」

一メインはエルガーの交響曲第2番。

山田「これも初挑戦なので今勉強していますが、とにかく難しい。でも、噛めば噛むほど味が出てくる曲ですね。イギリスのオーケストラはこの曲をすごく大切にしています。エルガーには古きよき時代、大英帝国のいちばんいい時代を思い出させる要素があるのでしょうか。」

エルガーは美しいメロディ、心に響くメロディを書ける人で、この曲も第2楽章に深い歌謡性があります。また全体的には、音の宮殿、音の建築物のような、堂々とした威厳と品格がありますね。この曲を通じて、イギリス独特の風格を感じていただけたらと思います。」

助成:



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会

文化庁
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan

今後の日本フィル出演公演 2024年12月～2025年2月

2024	公演/会場/日時	出演者/曲目	チケット/お問い合わせ
12月	宇都宮第九合唱団 第43回演奏会 宇都宮市文化会館大ホール 7[±]15:30	指揮:下野 竜也 ソプラノ:今井 実希 メゾソプラノ:郷家 暁子 テノール:濱松 孝行 バリトン:大川 博 合唱:宇都宮第九合唱団 ベートーヴェン:交響曲第9番《合唱》 他	好評発売中 お問合せ: 宇都宮第九合唱団
	第24回相模原定期演奏会 相模女子大学グリーンホール 8[日]14:00	指揮:下野 竜也 ピアノ:伊藤 恵* (出演者が変更になりました) ベートーヴェン:歌劇《フィデリオ》序曲 ベートーヴェン:ピアノ協奏曲第5番《皇帝》* ベートーヴェン:交響曲第6番《田園》	好評発売中 日本フィル・サービスセンター 日本フィルeチケット♪
	日本フィル・ソニックシティ 「第九」演奏会2024 ソニックシティ 13[金]19:00	指揮:下野 竜也 ソプラノ:富平 安希子 アルト:小泉 詠子 テノール:糸賀 修平 バリトン:宮本 益光 合唱:埼玉第九合唱団 ニコライ:歌劇 《ウィンザーの陽気な女房たち》 ベートーヴェン:交響曲第9番《合唱》	好評発売中 日本フィル・サービスセンター 日本フィルeチケット♪
	第九特別演奏会2024 サントリーホール、 横浜みなとみらいホール他で開催 15[日]～28[±]	はさみこみのチラシをご覧ください	好評発売中 日本フィル・サービスセンター 日本フィルeチケット♪

2025	公演/会場/日時	出演者/曲目	チケット/お問い合わせ
1月	第147回さいたま定期演奏会 ソニックシティ 11[±]14:00	指揮:沼尻 竜典 ヴァイオリン:三浦 文彰 ブラームス:ヴァイオリン協奏曲 ドヴォルジャーク: 交響曲第9番《新世界より》	好評発売中 日本フィル・サービスセンター 日本フィルeチケット♪
	コバケン・ワールドVol.38 サントリーホール 12[日]14:00	指揮とお話:小林 研一郎 [桂冠名誉指揮者] ヴァイオリン:田野倉 雅秋 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター] J.シュトラウスII世: ワルツ《美しく青きドナウ》 メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲 ドヴォルジャーク: 交響曲第9番《新世界より》	好評発売中 日本フィル・サービスセンター 日本フィルeチケット♪

日本フィル・サービスセンター TEL:03-5378-5911 [平日10時-17時]
日本フィルeチケット♪ <https://eticket.japanphil.or.jp>



公演の詳細は日本フィル・ホームページでご確認ください。www.japanphil.or.jp

2025	公演/会場/日時	出演者/曲目	チケット/お問い合わせ
1月	第767回東京定期演奏会 サントリーホール 17[金]19:00 18[±]14:00	指揮:山田 和樹 ヴァイオリン:周防 亮介* エルガー:行進曲《威風堂々》第1番 ヴォーン・ウィリアムズ:揚げひばり* エルガー:交響曲第2番	好評発売中 日本フィル・サービスセンター 日本フィルeチケット♪
	2025都民芸術フェスティバル すみだトリフォニーホール 21[火]19:00	指揮:高橋 直史 ヴァイオリン:南 紫音 吉松 隆:鳥は静かに・・・ シベリウス:ヴァイオリン協奏曲 シベリウス:交響曲第2番	お問合せ: 日本演奏連盟事務局
	第404回横浜定期演奏会 横浜みなとみらいホール 25[±]17:00	指揮:藤岡 幸夫 フルート:Cocomi 武満徹:組曲《波の盆》 モーツァルト:フルート協奏曲第2番 ルグラン: 交響組曲《シェルブールの雨傘》	日本フィル・サービスセンター 日本フィルeチケット♪
	東京オペラシティ特別演奏会 東京オペラシティコンサートホール 26[日]14:00	指揮:園田 隆一郎 ギター:村治 佳織 ナビゲーター:高橋 克典 ロドリゴ:アランフェス協奏曲 サン＝サーンス:交響曲第3番 《オルガン付き》(オルガン:勝山 雅世)	日本フィル・サービスセンター 日本フィルeチケット♪
	にじくら～トークと 笑顔と、音楽と 第6回 サントリーホール 29[水]14:00	指揮:藤岡 幸夫 ピアノ:阪田 知樹 グリーグ:ピアノ協奏曲 シベリウス:交響曲第2番	お問合せ: 杉並公会堂
	日本フィル杉並公会堂シリーズ 2024-2025 第3回 杉並公会堂 31[金]15:00	指揮:下野 竜也 お話:加藤 昌則 ベルリオーズ:ローマの謝肉祭 ベルリオーズ:幻想交響曲	お問合せ: ひらしん 平塚文化芸術ホール
	素敵な音楽人へ with 日本フィルハーモニー交響楽団 ひらしん平塚文化芸術ホール 2[日]15:00	指揮:カーチン・ウォン[首席指揮者] ピアノ:仲道 郁代(2/11, 12, 14, 15, 19) チェロ:宮田 大(2/8, 9, 16, 18)	日本フィルeチケット♪
	第50回九州公演 日本フィル in KYUSHU 2025	エルガー:行進曲《威風堂々》第1番(全日程) エルガー:チェロ協奏曲(2/8, 9, 16, 18) ショパン: ピアノ協奏曲第1番(2/11, 12, 14, 15, 19) チャイコフスキー: 交響曲第5番(2/8, 12, 14, 16, 19) ムソルグスキー(ラヴェル編曲): 組曲《展覧会の絵》(2/9, 11, 15, 18)	
	8[±]15:00 長崎市民会館 9[日]14:00 大牟田文化会館 11[火・祝]14:00 北九州ソレイユホール 12[水]19:00 iichikoグランシアタ 14[金]19:00 都城市総合文化ホール 15[±]14:00 宝山ホール(鹿児島県文化センター) 16[日]14:00 アクロス福岡シンフォニーホール 18[火]19:00 佐賀市文化会館 19[水]19:00 熊本県立劇場コンサートホール		

広上淳一 & 日本フィル 「オペラの旅」Vol.1《仮面舞踏会》 記者懇談会レポート

2024年10月24日、東京音楽大学にて記者懇談会を行いました。多くの音楽・報道関係者の皆様にお集まりいただきましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。以下に記者懇談会の内容をご報告いたします。

平井 俊邦(日本フィル理事長)

来年4月、日本フィルは広上淳一氏とともに、新しいプロジェクト「オペラの旅」をスタートします。第1回目はヴェルディの《仮面舞踏会》です。1989年、シドニー・オペラハウスで広上さんがはじめて指揮をした、思い出のオペラでもあります。サントリーホールというすばらしい響きのホールで、舞台空間を生かしたセミ・ステージ形式で、オペラの魅力をたっぷりお届けします。オーケストラファンの皆様には、ヴェルディが声を使った交響曲だと思って聴いてほしいと願っています。

広上マエストロにはこれまでも大きなサポートをいただいていたのですが、日

本フィルが大きく飛躍できる新しいプロジェクトに取り組もうと話し合い、この「オペラの旅」という大きな挑戦を、自らの力でやっけていこうと決意いたしました。

ピットに入っている回数は少ないですが、日本フィルの音は、実はオペラに向いているのではないかと考えております。広上マエストロとともにこのプロジェクトを通してまたひとまわりオーケストラとしても成長していく姿にご期待ください。お客様には身近にオペラの楽しさを体験する機会を広げていただければと願っております。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

広上 淳一[フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)]

1984年、オランダで開催されたキリル・コンドラシン国際コンクールで優勝した際、審査委員長だったベルナルト・ハイティンク先生に、「指揮者として成長する中で、オーケストラに育てられたことへの感謝を感じる時がきっと来る。その

ことを心に留めておきなさい。」と言葉をかけられました。

日本フィルとの出会いは、私の人生を大きく変えました。私を育ててくれたオーケストラです。思い返せば、日本フィルとは、1982年のコンクールではじめて

演奏しました。これが日本フィルハーモニー交響楽団との長い歴史の始まりだったと記憶しています。そして1988年に東京文化会館での日本フィルの東京定期演奏会でデビューを果たしました。それから42年間の付き合いです。正指揮者の時期を経て、現在「フレンド・オブ・JPO」という名をいただいたのも、私の深い感謝の表れです。

2年前には東京定期演奏会で《道化師》を演奏会形式で行いましたが、これは日本フィルのオペラ演奏の素晴らしさを再認識する機会となりました。今回、信頼する高島勲先生と、日本を代表する

高島 勲(演出)

この度、日本フィルハーモニー交響楽団の新たなプロジェクト「オペラの旅」に、広上淳一氏と共に《仮面舞踏会》の演出を手がけることになりました。広上氏とは長年の信頼関係があり、今回、音響の良いホールでオペラを上演するという新たな試みに共に挑戦できることを大変光栄に思います。

これまでの舞台経験を活かし、音に集中し、作曲家の意図を最大限に引き出す演出を目指します。特に、サントリーホールでのオペラ演出は初めてですが、舞台装置がない中で衣裳や照明、そして振り付けを効果的に用いることで、ヴェルディが描きかけた「赦し」という深遠なテーマを、観客の皆様感じていただけるよう工夫を凝らします。

《仮面舞踏会》は、豪華絢爛な舞踏会

歌手たちとのコラボレーションで、新たなオペラシリーズを立ち上げることになりました。この企画は、日本フィルの新たな可能性を引き出し、多くの方にオペラの魅力を伝えることを目指しています。

東京音楽大学合唱団にも参加してもらい、若い音楽家たちがプロの演奏に触れる機会を提供したいとも考えています。

このオペラシリーズが、日本フィルの新たな歴史の始まりとなることを願っています。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

の裏に隠された人間の本性を描いた作品ですが、単なる歴史劇にとどまらず、現代社会にも通じる普遍的なテーマを扱っています。政治における暗殺や、恋愛における裏切りなど、現代の私たちも直面する問題を、ヴェルディは音楽を通して深く描き出しています。

今回の公演では、衣裳や、振り付けによって登場人物たちの感情を表現し、観客の皆様を物語の世界へと誘います。また、サイドプログラムも充実させ、オペラをより深く楽しんでいただけるような取り組みも行っています。

広上氏との長年の信頼関係を基に、そして、日本フィルの素晴らしい演奏とともに、観客の皆様忘れられないオペラ体験を提供できるよう、全力を尽くしてまいります。

中村恵理(アメーリア役)

《仮面舞踏会》でアメーリア役を務めさせていただく中村恵理です。これまで日本フィルハーモニー交響楽団の皆様とは「第九」で共演させていただきましたが、オペラ作品としてご一緒するのは今回が初めてです。「オペラの旅」第1作目にお声がけいただき、大変光栄に感じております。物語では、政治的なテーマと家庭内の葛藤が複雑に絡み、アメーリアの内面が大きな政治ドラマへと展開していきます。現代にも通じるテーマがあり、役柄に深い共感を覚えています。

また、私が海外で活動するオペラ歌手ということで、「日本での演奏活動はいかがですか?」と事前に質問をいただ

ておりますが、私のスタンスはどこにいても変わりません。今回はサントリーホールのような素晴らしい会場で、今作品に出演できることを誇りに感じるとともに、オペラやクラシック音楽がさらに多くの方に楽しんでいただけるよう、日本語字幕だけでなく、英語字幕の今後の導入なども期待しています。この素晴らしい「オペラの旅」シリーズが若い世代にとっても活動の場として続くことを願い、公演に向けて全力を尽くしてまいります。

宮里直樹(リッカルド役)

リッカルド役を務めさせていただきまず、宮里直樹です。昨年、宮崎での《仮面舞踏会》でこの役の難しさを痛感しました。歌い続ける役で、僕自身にとっても大きな挑戦です。

広上先生や中村さん、日本フィルの皆様と再びこの作品に取り組めることを大変光栄に思います。前回の経験から、この役に対する恐怖心も少しありますが、同時に大きな喜びを感じています。

今回は舞台オペラではないとのことですが、衣裳を着用し、動きも取り入れながら、オペラとして真摯に向き合いたいと思います。この作品の魅力がお客様

に伝わるよう、全力を尽くします。

「オペラの旅」の幕開けとなる今回の公演を成功させ、次のステップへと繋がりたいと考えています。広上先生、高島さん、日本フィルの皆さん、そして素晴らしい歌手の皆様と力を合わせ、素晴らしい舞台をお届けできるよう頑張りますので、ぜひサントリーホールへ足をお運びください。



ヴェルディ:オペラ《仮面舞踏会》 (セミ・ステージ形式/全3幕/字幕つき)

2025年4月26日(土) 17:00
27日(日) 17:00

サントリーホール

指揮:広上 淳一[フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)]

演出:高島 勲

アメーリア:中村 恵理

リッカルド:宮里 直樹

レナート:池内 響

ウルリカ:福原 寿美枝

オスカル:盛田 麻央

シルヴァーノ:高橋 宏典

サムエル:田中 大揮

トム:杉尾 真吾

合唱:東京音楽大学

振付:広崎 うらん

衣裳:桜井 久美(アトリエヒノデ)

照明:岩品 武顕

舞台監督:幸泉 浩司

副指揮:喜古 恵理香、荒木 流音生

2024年12月11日(水)発売

SS ¥12,000 S ¥9,500 A ¥8,000

B ¥6,500 C ¥5,000

D ¥3,000※一部見切れあり/電話のみ

Ys(25歳以下) ¥4,000*

Gs(70歳以上) ¥5,000*

*SS,S,D除く



特設ページはこちら▶

